

朝顔の絵の風鈴

和裁上手の母つちやに教えられて

初めて浴衣を縫った夏があつた

青色と薄桃色の大きな朝顔が

白地にそちこち咲いた鮮やかな記憶

ホームセンターの人混みの中

立ち去れなくて

呼ばれる声のままに

朝顔の絵の風鈴を買った

吊した風鈴がベランダで

チリリ チリリとゆれて鳴る

朝顔の絵の風鈴よ

ゆらす風よ

ひらりと乗ったら

連れて行ってくれるか

母つちやと呼んで暮らしたあの家に

母つちやと並んで

チクチク チクチク 針を運ぶ

汗をふく仕草もいっしょ

神社の夏祭りを待つ想いもいっしょ

衿はこうしてつけるんだよ

台所の簾からのぞいていた朝顔

止まった夏に母つちやが笑う

今夜 熱帯夜

三日月とろり 浴衣の風よこい

朝顔の絵の風鈴 かすかな遠太鼓

母つちや

会いたい